

実況中継「土曜講座」

第9号

2026年9月30日発行

市川学園9月26日の土曜講座 於 北館1F多目的ホール

吉川武男先生

「こころ」は科学でどこまでわかるのか

遺伝子・環境・脳から考える人間のこころ

吉川武男先生のご紹介

市川高等学校卒業後、東京大学教養学部基礎科学科を卒業されたのち、大阪大学医学部医学科を卒業されました。精神科医として長年にわたり精神医学研究と臨床の発展に尽力されてこられました。特に、統合失調症や双極性障害などの精神疾患の病態解明を専門とされ、遺伝子研究や脳科学研究の分野で我が国を代表する研究者の一人です。東京医科歯科大学医学部で研鑽を積まれた後、研究者・精神科医として活躍され、理化学研究所において脳科学総合研究センター・脳神経科学研究センターの分子精神科学研究チーム チームリーダー・分子精神遺伝研究チーム チームリーダーやセンター長室 室長などの要職を歴任されました。

これまで一貫して精神疾患の原因解明と治療法開発に取り組まれ、統合失調症、双極性障害、自閉スペクトラム症などに関する数多くの研究成果を国内外へ発信してこられました。その業績は精神医学および脳科学の発展に大きく貢献しています。

主な講義内容の紹介

2026年9月・第5回土曜講座は、吉川武男先生による「『こころ』は科学でどこまでわかるのか」という講演でした。先生の学園生活時代のお話からは古き良き時代の本校の様子をお聞きすることができました。また、大学進学後に分子生物学への興味が湧いてきたことから東京大学卒業後にさらに大阪大学で学ぶこととなります。自分の興味関心を追求し続ける姿勢からは、進路選択で悩む高校生にとって大変ためになるお話だったのではないのでしょうか。

現在の精神医学は様々な面で必要とされておりますが、先生が研鑽を積まれていたころには、精神疾患のことはすべてがあいまいだったとのことです。次第にゲノム科学の進歩やDNAの研究とともに、精神疾患の治療に向き合う世の中になってきたようです。また、リンカーンはうつ症状を、チャーチルも双極性障害を、ルーズベルトも軽躁の症状であったなど、過去の著名な人物も精神疾患を患っていたことも驚きでした。医者は患者にとって「心の灯台」であれ、というお言葉が印象に残った生徒も多かったのではないのでしょうか。将来医学をはじめ、人間の健康に興味を持った生徒にとっては貴重な機会となりました。

受講レポートから

- ・「夢を見て行い考える」という言葉から、理想は大きく持ち、絶対に実現できないと思っても、自分でできる範囲では行動・努力し、実際にその努力が実り、実現できるよう祈ることが大切だと分かった。将来の夢を決めるときは大きなものを持ち努力しようと思った。

(中1女子)

- ・「医者は患者さんの『灯台』であれ」という言葉が一番印象に残った。灯台のように暗闇を照らし、正しい方向へ導く役割であり続けるべき、患者さんにたよってもらえるような「心の灯台」のような存在であるべきだということに納得した。自分の将来生命の役に立つことができる人間になりたいと思った。

(中1女子)



- ・精神疾患の原因を脳とともに、DNAから理解することで家族の遺伝的な要因から発症したのか、原因遺伝子がどこにあるのかということが30億個のゲノムから見つけ、わかるということが驚きだった。

(中2女子)

・自分自身も精神科医がおこなう、診断結果について以前から疑問を持っており、どのような実験があったのかなどについて調べていた。症例の信仰による「信仰告白」になることを今回学ぶことができ、自分の学びをまた一歩進めることができた。

(中3男子)

- ・「精神科」や「こころ」を脳やDNAから研究するということをはじめに聞いたときは、生物、もっと狭くすれば人体関係しかかわっていないだろうと考えていたが、科学を少しずつわかかってきていたり、薬についても考えるなど、人体のことだけではなく、組み合わせが複雑になると調べることも多くて大変そうだと感じた一方、様々な分野から一つのこととつながったときの達成感や楽しさを味わってみたいと思った。

(高1女子)

- ・DNAの二重らせん構造のお話の時に「深い真理はシンプル、シンプルな真実ほど感動が強い」という言葉を聞いて、何事も難しく考えすぎないことも大事なのだと気づかされた。DNAの研究はここ数十年で格段に進歩したことを知り、何人もの研究者の努力や苦勞が積み重なって、いま私たちが受けることのできる医療が拡大したのだと改めて実感した。

(高2女子)

(高2女子)



- ・精神科医は外科や内科のように手術や薬の投与で悪くなった部分を除くわけにはいかない、と感じていたので、臨床現場でどのように患者と向き合うのかを知ることができてよかった。様々な要因が重なり、影響あって発症するという点が精神疾患の大変な点だし、面白いと改めて感じた。(高2女子)

(文責：武井 大輔 先生)